

令和6年第7回 幸手市教育委員会定例会会議録						
招 集 期 日		令和6年7月23日（火）午前9時30分				
開 会 場 所		幸手市役所本庁舎 3階 第1委員会室				
開会の日時・宣告者		令和6年7月23日（火）午前9時30分			山 西 実	
閉会の日時・宣告者		令和6年7月23日（火）午前11時48分			山 西 実	
出席 状況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	教 育 長	山 西 実	出席	教育委員	藤 沼 寛 次	出席
	職務代理者	会 田 研 司	出席	教育委員	古 沢 万 友 実	出席
	教育委員	高 島 勝 也	出席	教育委員	林 晴 実	出席
傍聴人：0人				書 記：関 口 智 章・河 口 奈 緒		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	仙 田 茂 雄	共 栄 大 学 非 常 勤 講 師	小 林 学		
	教育総務課長	大 竹 孝 典				
	学校教育課長	中 沢 朋 宏				
	社会教育課長	松 阪 隆 一				
	教育総務課 主 席 主 幹	野 村 明 広				
	教育総務課 学校再編相談員	藤 井 健 治				

会 議 事 件 名	顛	末
開 会 午前 9 時 30 分	教育長 開会を宣する。	
日程第 1 前回会議録の承認	教育長 令和 6 年第 6 回教育委員会定例会の会議録の内容について質問を求める。 《質疑》 質疑なし。 《承認》 全員異議なく承認。	
日程第 2 議 事 議案第 17 号 第 23 採択地区令和 7 年度使用中学校用教科用図書の採択について	教育長 ここからは非公開となる旨、宣する。 学校教育課長 議案書により説明する。 《非公開議案の審議》質疑あり。 《採決》全員異議なく原案どおり議決。 教育長 非公開を解除とする旨、宣する。	
専決報告第 17 号 臨時的任用教職員の 内申	学校教育課長 議案書により説明する。 《質疑》 会田職務代理者 全国的に教員不足と言われているが、幸手市の加配でも見つからない状況か。 学校教育課長 7 月 1 日に栄養教諭が配置され、加配では欠員がない状態になった。今後も産休・育休が見込まれる一方で教員不足の状況も把握しており、全力で探していく。	

《質疑》

藤沼委員

2点申し上げたい。1点目は、学校再編について。令和3年8月に市長からの依頼を受け、令和5年12月に議会へ報告するまで、スピード感をもって進んできた。今後、プロジェクトが細分化され動いていくことになると思う。これまでの頑張りにお礼を言うとともに、今後ともよろしく願う。

2点目は、郷土資料館の入館者数が115人増えたことについて。館長をはじめ、社会教育課の活動の賜物だと思う。さらに増加すれば、幸手市のためにいろいろ有効に働くだろう。

教育長

学校再編については、検討すべき事項は多くあると考えている。

郷土資料館の入館者は、市外から来る人も多いと認識している。企画展などいろいろと考えてやっている。

林委員

社会教育課の活動について、市民への周知はどう行っているか。

社会教育課長

SNSや広報紙、市のホームページに掲載、ポスターを掲示、子どもたちに向けては学校を通じてチラシを配布するなどしてお知らせしている。

林委員

SNSはどの媒体を使用しているのか。

社会教育課長

XやFacebookなどである。

古沢委員

3点伺う。1点目は、学校再編について。専門部会はそれぞれ何人ずつになるのか。地区にとっては重要な案件であり、偏りがないように地区や選出区分による定数の規定はあるのか。

2点目は、図書館で予約の多い本について。予約が何十件とある人気の本は、予約した人は待つことになるのか。または複数冊購入するなどあるのか。

3点目は、B&G海洋センターの自主事業「BGキッズ体操教室」について。予約の際に外まで列が並んでしまう

日程第 4 その他 1 次回以降の会議 日程	ことがあると聞いている。非常に暑いので、電話予約で抽選を行うなど、安全に配慮してほしい。 教育総務課長 専門部会員の地区や選出区分による定数は決めていない。現時点では専門部会の箱が決まっているのみで、専門部会員は本日の会で決定される。部会員には、本日の会に向けて携わりたい部会の意向を確認しており、事務局への一任も含め偏りがないように配慮したい。 社会教育課長 図書館の本は、まず 1 冊用意し、予約が増えてきたところで買い足すようにしている。予約が落ち着いてきたら本館と分館に分けるなど活用している。 イベントの申込みについては、外で並ぶことがないよう課題として検討していく。 各委員の意見を調整した結果、次回の会議について、次のとおり決定する。 令和 6 年第 8 回教育委員会定例会 日時 令和 6 年 8 月 20 日（火） 午前 9 時 30 分 会場 幸手市役所第二庁舎 2 階 第 1 会議室 A 2 次回の協議事項 教育総務課長 協議の結果、「児童生徒用タブレット端末の更新について」とする。 3 その他 高島委員 今年度から中学校の制服が変更となったが、学校ではどのような様子か。 学校教育課長 それぞれ、制服を大切に思いながら学校生活を送っている姿が見受けられる。
--	--

日程第 5 協議事項 春日部市立江戸川小 中学校の学校運営に ついて	小林様 資料により説明する。 《質疑》 藤沼委員 2点伺いたい。1点目は、学びの制度が変化したことでのメリット・デメリットはどのようなことがあるか。中1ギャップ、9年間の学びの効果と継続的な指導、学童クラブなど具体的な課題は。 2点目は、3つの学校が統合されたことでPTAが一組織になったと思うが、そのまとめ方について。 小林様 学びの繋がりについては、各教科横断的な検討をした。準備委員会では小・中の教諭が集まって話し合いをしたが、まだまだ議論の余地はあったと思う。これまでの小学校にあたる前期課程と、中学校にあたる後期課程への繋ぎは、スタートしてすぐには難しく、2～3年後を目指して取り組んでいく必要がある。 学童クラブについて。学校には学区外から来る子もいて、保護者の送迎が前提になる。学区外からの通学は、保護者と面談し、保護者の協力が必要であることを伝え、最終的には教育委員会が許可を出す。最初は、スクールバスと保護者の送迎車がピークになると混雑して、駐車場の確保に苦労した。そこで、グラウンドの一部を舗装し、専用の門を整備した。学童クラブの運営は民間に委託し、必要があれば協力はするが、基本的にはノータッチである。 PTAについては、義務教育学校として一つにまとめた。各々の会で強い思いはあったが、地域の有力者が間に入りながら、子どもや地域のために協議を進めていった。学校の後援会が全面的にバックアップしたことも大きかった。 高島委員 小学校と中学校では文化の違いがある。小学校では教員が同じ教科を教えることがあるので、ある程度まとめることができるが、中学校では専門性が強く、教科によっ
---	---

	ては一人、二人しかいない場合に校内研修が機能しない うえ、他の教科に踏み込むことも難しい。 また、人事の面で教科担任制を進めるうえでは、複免の 問題もある。小学校・中学校でどのような免許を持っている のかという点が考慮されていたのか。 最後に、児童生徒のうち学区外からの割合はどの程度 だったのか。 小林様 中学校は、基本的に各教科 1 人だったし、美術・技術の 教員は配置がなかったので、他校から来てもらっていた。 教科ごとの校内研修は難しく、小学校の研修、全体の研 修、道徳や安全という面での研修など、いろいろなパター ンの研修があったが、他校の教員との交流というのも大 切にしていた。 また、教育委員会としては小学校と中学校の免許を持 つ教員で固めたかったと思う。義務教育学校が開校する 前から意図的に小学校と中学校の免許を持つ教員を集め るようにしていた。開校前から準備しておくことが必要。 地区内外の数で言うと、毎年 20 人ぐらいが地区外から 通っていた。特別支援の子は、地域性を大事にするという ことでそれぞれの地域の学校に通っていた。地区外から 通う子の中には、大人数は難しいけど少人数なら問題な いなど、少し配慮が必要な子が見られた。教員は苦労もあ ったかと思うが、義務教育学校を選択したことで不登校 の解消に繋がるとともに、学校の雰囲気慣れた子ども もおり、やりがいもあったかと思う。 中学校の教員にとって小学校のきめ細やかさは刺激に なったようで見習うことが多かった。席が近いので普段 からやり取りができ、中学校の体育の教員が小学校の授 業へ行って一緒に教えるということもあった。 会田職務代理者 幸手市での義務教育学校開校が非常に楽しみ。いろい ろな友達の意見から学ぶこともあるだろうし、ある程度 の集団の中で学力やコミュニケーション能力が育まれる ということもある。 また、最初は大変かもしれない。長い目で見ると、例え ば 5 年生 6 年生の授業は専門的なことに入っていくの で、これが中学校の授業に繋がっていくと考えると教材
--	--

	研究は大変だろう。 先ほどの体育の話でもあったが、働き方改革の点で言えば小学校の教員には負担が減ると思うが、その関係ではどうだったのか。 さらに、廃校になった学校の跡地をどうするのかというのは大きいと思う。それもある程度考えていかなければならないが、宝珠花小学校や富多小学校の跡地はどうなっているのか。 小林様 宝珠花小学校も富多小学校も複式学級の時があったが、市費の教員を配置して複式学級を回避していた。統合することで集団で学ぶことの効果は大きいと思う。いろいろなことが起きるが、その都度、学んで成長していく。すべてが学びに繋がっていく。 教材研究は確かに大変ではある。1学級しかないので1回使って終わってしまう。しかしながら、学級数が少ないということは授業数も少ないので、研究や準備に使う時間でもあるし、小学校の教員にとっては、教科担任制があるので多少は楽ができる。 跡地については、2校ともしばらく活用の方向性が見えなかった。校庭に草が伸びるなど、地域の人や卒業生が寂しいと言っていたので、跡地のことは早急に考えた方がよい。 現在では、宝珠花小学校は震災で被害を受けた大風会館と公民館として活用する予定があり、富多小学校は民間の農業研究所で活用されている。 古沢委員 資料にある4年生と9年生の触れ合いのようなことは、地区の公園でも目にすることはない。頼れるお兄さんお姉さんができるというのは楽しみ。 進学指導や進路指導に変化はあったか。また、校則を作るときに子どもたちは携わったか。 小林様 進路指導に特別変化はない。少人数なのできめ細やかにでき、関わる時間が多くとれるため、いろいろ相談に乗ることができる。 校則は随時、変えながら子どもたちに伝えるということをしていた。中身は今の時代に合うよう、子どもたちの
--	---

	自主性など、校則を作る段階でいろいろ考え、細部にわたって検討した。今の時代であれば検討する際は、子どもや保護者に入ってもらった方がいいと思う。子どもたちに考えさせることによって意識付けをする。自分たちで作ったものはそう簡単に破れないということもある。 教育部長 地域の協力が不可欠ということ、統合後も地域とかかわりを持っていきたいと考えているが、何か具体的な方策はあるか。 小林様 地域にとって学校の存在は大きい。地域の想いを受け止めていく。そのためには準備委員会の段階で地域を巻き込み、意見を聴く。それに応えられるものを用意しておくこと。 高島委員 教材研究が大変ということについて。1回使ってお終いではもったいない。作ったものをみんなで共有するためにも、デジタルで残しておくということが大変重要になってくるかと思う。教材の共有化という面についてはどのように進めたのか。 小林様 例えば英語の教員は、中学生だけでなく小学5年生6年生も見ていたので、テストを作るのが大変だと言っていた。それをストックしていくことは大切だと感じた。ジュニア棟というのがあったが、そこに教材準備室があってたくさんのアナログ教材を保管していた。今であればデジタルで教材を保管していくべき。さらに言えば、市内全体で共有するという方法も考えられる。教科で若い先生が1人しかいないときなど困ってしまうので、他校でもいいからベテランの教員に相談できる体制は必要。 教育総務課長 2点伺いたい。1点目は、廃校になる学校の閉校式について。全ての学校で実施したのか。実施にあたって、どこがその音頭を取ったのか。 2点目は、校歌について。どこに依頼したのか。 小林様 小学校2校、中学校1校で閉校式を行い、義務教育学校で開校式も行った。様々な来賓や地域の人に来てもらっ
--	---

閉 会 午前 11 時 48 分	た。入学式は基本的に小学 1 年生に入るときだけだが、開校の時だけは中学 1 年生と小学 1 年生が一緒に入場する形で入学式を行った。翌年からは小学 1 年生だけになった。 また、小学 6 年生の卒業式がないのは寂しいという声があり、立志式という形で前期修了証書を渡した。やはり節目をつけたいというのがあって、それはやってあげようということで途中で変更した。 校歌について。江戸川小中学校の開校の際、もう一つ別の中学校が統合した。いずれも地元の人に作ってもらった。子どもたちから歌詞を募ったり、廃校になった各校の校歌のフレーズを使いながら新しい校歌を作った。 校章については、江戸川中学校の卒業生が校章を残してほしいという強い想いがあったので、できるだけそのような形で校章を作った。 教育長 閉会を宣す。
-----------------------------	---

ほ か 特 に 重 要 と 認 め る 事 項	な し
	上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和6年8月20日 教 育 長 山 西 実 署名 署 名 委 員 林 晴 実